



第 51 号
2019 年 10 月 31 日



埼玉県合唱連盟
〒330-8557 さいたま市浦和区常盤4-12-13
(朝日新聞さいたま総局内)
TEL 048-824-8161
FAX 048-831-5310
<http://saicn.net/>

朝日新聞さいたま総局 雜崎 徹 総局長に聴く! ～新しい出会いを大切に～

このたび朝日新聞さいたま総局長に就任された、雑崎徹総局長にお話をお聴きします。

ご自身のこと

東大阪市生まれ、3歳から東京に移住しました。

早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。学生時代はほとんど学校行ってなかったです。

《少年の頃は?》

高校まで水泳自由形で活躍したんですよ。雑誌付録の「鉱石ラジオ」を作った一晩中聴いていました。高校の成績はアヒルの大行進(2)ばかりで、体育だけが5でしたね(笑)。

《学生時代はどんな学生?》

昼間は水泳部のサークル、夜は飲みに行くという生活です。

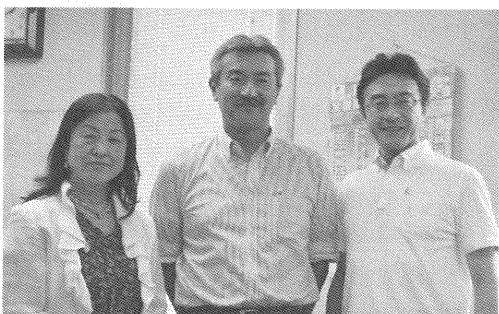
《就職について》

エリート臭がする朝日新聞には行きたくなかったんです。ラジオ局のディレクターになりたかった。街に出ていろんな人に話を聞く毒蝮三太夫の番組のようなものを作りたいと思っていました。でもラジオ局は受からなかつたです。

だったらということで毎日新聞を受けましたがこれも落ちました。朝日新聞に入社してからは学芸部の芸能記者だった時期が長いです。タレントやテレビ番組を取材する記者でした。テレビ欄にある「試写室」を担当していました。

記者生活

入社2年目に栃木で監禁事件がありました。他社の記者はアクセス出来なかった地元の「怖い親分」に話が聞けた事は印象に残っています。15分と言われながら結局は90分も話してくれました。



左から 小島副理事長、雑崎総局長、浅子理事

2015年から2017年まで北海道テレビ報道部のテレビ記者をやっていました。生活ぶりは新聞社と全然違います。テレビはカメラ・クルーと

一緒に行動し取材後は編集マン(動画を編集してくれる人)と共に編集作業をします。画像に合わせて記事を作るんです。

《テレビ局から新聞社に戻つていかがでしたか?》

テレビは視聴者に分かりやすく作っていた。テレビと比べると新聞は配慮が足りないと感じたのが今に活かされています。

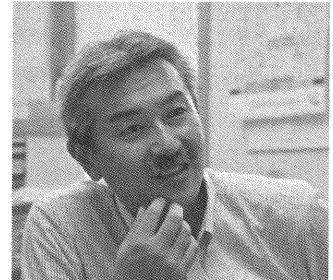
昼夜境い目なく働くことが多かったので「規則的に不規則な生活」でした。私は海外旅行の時差ボケはしないです。いつでも寝られる。電車では座って3秒で寝られます。

《記者生活の苦労話は?》

他社に特ダネを抜かれることですね。逆もあるけど抜かれる事のほうが多いです。

《朝日新聞の記者として大切にしたいことや信条は?》

その人に現場で直に会って話をして記事にするという事を大事にしないといけないと感じています。



合唱とのかかわり、コンクールで思うことは

学校での合唱コンクールは嫌いじゃなかったです。歌うのは好きですよ!好きな曲はナイショです。合唱コンクールでは、金賞でも代表になれない「ダメ金」が可哀想だなと思っています。

グループが一つの目標に向かっていく過程ではいろいろあるはずです。喧嘩もあるだろうし、それを乗り越えて一つの結果を出すというのは今の時代大事な事と思っています。大人になる前にそれを経験することが大切。朝日新聞が主催する意味がそこにあると感じています。

埼玉の人間は?

優しい人ばかり。飲み屋では知らない人でも喋ってくれる。「ダメなさいたま」には怒ります。なんで外から言われなきゃいけないのかと。異動てきて浦和に降り立った時、「今日から埼玉県民だ!」とネットで発信したら、自分も埼玉県出身なんです、と言ってくる人が多かったこと!埼玉の人は優しいです。

朝日新聞さいたま総局・総局長室にて
インタビュー：小島副理事長、浅子理事
撮影：埼玉県合唱連盟



第64回 埼玉県合唱祭 ～あたたかい気持ちに包まれて～

令和元年6月1日から16日までの5日間、3会場において埼玉県合唱祭が開催されました。参加者は5652名。連盟最大の事業になります。しかし5年前、参加者は6000名を超えておりました。徐々に減っている理由はいくつもあると思いますが、今合唱祭担当として私たちが出来ることはなんだろう、とずっと考えていました。

共感し、みんなで作る合唱祭。参加して楽しかった、よかったですと思える合唱祭。やはりお祭りなんだからもっと楽しくしたい、拍手しやすい雰囲気を作りたい。昨年は「いいねカード」を作りました。

そして今年考えたのが、開会式・閉会式の司会を高校生にしてもらう、ということです。今まで真面目過ぎたかなあと。

合唱祭当日開会式前、あらかじめお願いしてあった高校生が2人、袖に来てくれました。もちろん緊張の面持ちです。実は私も初めての試みで内心バクバク。何かあって高校生につらい思いをさせてはいけないという想いでいっぱいです。立ち位置、マイクの持ち方、入りはけのタイミング等の打ち合わせを済ませ、「インタビューするけど、お手本みたいな答えはいらないから、今本当に思っていることを言葉にしてね」と伝えました。そこから本ベルまでの時間が微妙に長い。緊張感が増したように思います。

そしていよいよ本ベル。
そのベルがこれまた長い。
マイクと原稿を持って息を詰めていたのに一回ため息をついて仕切り直し。2人はステージに出てきました。会場は高校生司会を楽しんでいました。



しみにしてくれていた方も多く、とても温かく迎えてくれました。「本日司会を務めさせ…」言葉を噛んでしまっても「ドンマイ」と

会場からあがり、準備してくれていたフリートークも会場が楽しんでくれました。

私は袖から輝いている2人を見ながら、この湧いてくるエネルギーはなんだろう、若いつて素晴らしいとつくづく感じました。そしてエネルギーと、緊張している高校生を応援したいと思う人たちの気持ちとが相まって会場が温かく盛り上りました。私はこっそり、もう初日の早い段階でこの企画は成功だと確信しました。

式の進行の間に何度拍手をもらつたでしょうか。最後の挨拶では「プラボー」が出た時もありました。演奏はいつものように影アナ進行でしたが、雰囲気は温かかった部が多かったように思います。高校生から「会場の人気が笑ってくれたり拍手をくれたりしてすごく嬉しかった」「みんなで作り上げる合唱祭の一員になれた気がした」等感想をもらいました。

高校の顧問の先生から「司会に選ばれた高校だと、司会者だけでなく部員全体の自信につながつたように思います」「親御さんとおばあちゃんも会場にいらしてくれて、大変喜ばれたそうです」等メールやFAXをいただきました。

閉会式を終えた彼らは頬っぺたを赤くして高揚していました。「来年もお願いしたらやってくれる?」と聞いたら「もちろんですっ」と元気な答え。司会の練習時間の捻出たいへんだったでしょうに、緊張したでしょうに、感謝で私も温かい想いでいっぱいになりました。そして応援してくださった会場の皆様、本当にありがとうございました。

何はともあれ初めての試み、準備やお願いの仕方など今後検討事項もいっぱいありますが、来年再来年と続けていきたいなあと思っています。(来年司会者の立候補も出ましたし) (常務理事 南 めぐみ)





初出場団体紹介

マミーチェ

阿部 幸 絵

母たちのドキドキの初舞台

私たち「マミーチェ」は、少年少女合唱団「ピアーチェ」の母で結成した合唱団です。今年3月のピアーチェ定例発表会に1曲、お母さん達も歌いませんか、と先生が提案してくれた事がきっかけでした。発表会では好評に終わり、せっかくですから、合唱祭にも出演してみましょうと、合唱祭に向けて練習を始めました。

6月16日熊谷さくらめいとの大ホール。毎年子供達の付き添いで観客席から見守るだけの私たちが出演者となった日。今まで味わった事のない緊張感とワクワクする気持ちで、心を込めて、楽しく歌いました。演奏を終えた後は達成感の感動からか、涙するメンバーも。

一度だけ歌ってみようという事から始まったマミーチェが合唱祭に出演することになり、そしてまた来年も合唱祭に出よう！という気持ちになっております。月に2、3回ほどの少ない練習で、まだまだ未熟ですが、子供達とも一緒に歌いたいという目標もでき、新たな一步を踏み出した記念すべき日になりました。



Sing Sing Chichibu

代表 黒沢 翔平 文責 飯島由麻

初出場ということで緊張していましたが、スタッフの方々がとても丁寧で緊張も少し和らぎました。また、今回初の取り組みだという高校生の司会は、爽やかな笑顔とその初々しい司会姿で合唱祭全体を盛り上げてくれていました。会場全体が温かい雰囲気に溢れており、のびのびと参加させていただきました。

本番では、さくらめいとのホールの響きに助けられ、私たちの演奏がいつもより美しく響いているように感じられました。

「いいねカード」では、他団体から貴重な声をいただき、大変励みになりました。私たちもカードの記入を通して、他団体とのコミュニケーションがとれ、楽しかったです。普段なかなか他団体と交流の機会をもつことがないので、刺激を受けることができ、よい経験となりました。

まだまだ課題の多い私たちですが、講師の先生方から頂いた講評や今回の合唱祭での経験を生かし、ますます合唱を楽しみながら、更なる高みを目指していきたいです。



T.friends

代表 池田 裕子

初めて参加した埼玉県合唱祭。大きな舞台で、たくさんの観客の方々に歌を聴いていただくという素晴らしい経験ができ、最高の1日になりました。

T.friendsは、小・中・高校の先生仲間を中心とした合唱団です。合唱経験がないけれど歌が好きな人、合唱指導に悩んでいる先生などいろいろな人が練習に参加しています。合唱の基礎を学びながら、歌のメッセージが伝わる合唱を目指して楽しく活動してきました。発足して8年、初めての合唱祭参加。月1回の練習で不安もありましたが、「T.friendsらしい歌を届けたい」と歌詞に想いを込めて練習を重ねました。そして本番、ピアノ伴奏が始まると一人ひとりの中に表現したい気持ちがあふれてきたように感じます。歌う喜びを感じながら最後まで思いっきり歌うことができました。会場のみなさんの温かい拍手を忘れず、これからも心に響く歌を届けられるよう頑張っていきたいと思います。





第 62 回

埼玉県合唱コンクール

～心ひとつにチーム力～

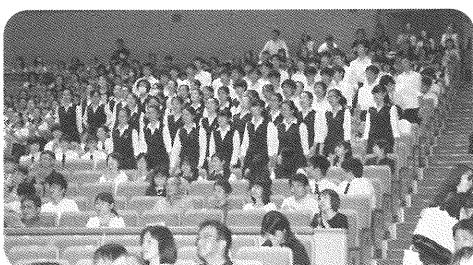
令和元年 8 月 17 日(土) 小学校部門・中学校部門 18 日(日) 彩の国部門・大学職場一般部門をサンシティ(越谷市)、8 月 31 日(土) は高等学校部門をソニックシティ(さいたま市大宮区)で開催しました。

令和初めての夏は、梅雨明けも遅く「冷夏となるのかも」と思っていましたが、梅雨明けからは猛暑が続き、各合唱団、練習も大変であったと思います。

コンクールの日も猛暑でしたが、多くの団体に参加していただきましてありがとうございました。

各部門すべての出演団体には、素晴らしい感動する合唱を発表していただきました。

一つ一つの言葉に魂が宿り、心を揺さぶられる演奏が多く、聞いているものは時を忘れ聞き入っていました。



結果の発表まで本当に、どの団体がどのような賞を受賞するのか、予想できませんでした。

緊張感あふれる中、最高の演奏ができたのでしょうか？ または、思いの残るコンクールになったのでしょうか？

それぞれ、胸に様々なことが浮かぶと思います。このコンクールを踏み台としてさらに合唱のすばらしさ、表現することの喜びを感じ、生涯にわたり合唱を愛好していただければ幸いです。

また、本年度から全日本合唱連盟では、「コンクール小学校部門全国大会」が始まりました。それに続きます埼玉県大会では、小学校 8 団体に出場していただき、会場には小学生らしい、明るく元気な歌声が響き渡りました。11月 3 日(日)に新宿文化センターで全国大会が開催されます。

来年度もさらに、「参加して良かった。」と充実感をもっていただけるようなコンクールを目指し、合唱連盟として取り組んでいきます。 (常務理事 大館直美)



撮影：スタッフ・テス株

第74回関東合唱コンクールの結果一覧

2019年 9月21日(土) 高等学校部門A・B
22日(日) 中学校部門 混声・同声 } 於：栃木県宇都宮市／宇都宮市文化会館
10月13日(日) 大学職場一般部門 } 於：千葉県松戸市／森のホール21

★高等学校部門Aグループ

【銀賞】県立松伏高校合唱部、埼玉栄高校コーラス部

★高等学校部門Bグループ

【金賞】県立浦和第一女子高校音楽部(支部長賞)、叡明高校混声合唱団、県立松山女子高校音楽部、星野高校音楽部、県立浦和高校グリークラブ

【銀賞】県立大宮光陵高校合唱団

★中学校部門 混声合唱の部

【金賞】さいたま市立宮原中学校混声合唱団、所沢市立美原中学校混声合唱団

【銀賞】所沢市立所沢中学校

★中学校部門 同声合唱の部

【金賞】さいたま市立宮原中学校女声合唱団、深谷市立幡羅中学校音楽部

【銀賞】所沢市立狭山ヶ丘中学校合唱部、春日部市立春日部中学校合唱部、ふじみ野市立大井中学校音楽部

【銅賞】栄東中学校コーラス部

★大学職場一般部門 大学ユース合唱の部

【銅賞】Sopra il fiume

★大学職場一般部門 室内合唱の部

【金賞】La Mer

【銀賞】Utabonne

★大学職場一般部門 同声合唱の部

【金賞】Paradise Relax

【銀賞】Il Campanile、Ensemble l'avenir

★大学職場一般部門 混声合唱の部

【銀賞】scatola di voce



下線の団体は全国大会への代表



先生！ お話し聞かせてください

武田雅博先生へのインタビュー

佐々木) 3日間にわたる御審査ありがとうございました。はじめに各部門への講評からお願ひいたします。

武田先生) 以下敬称略

<小学校部門>

極論を言えば先生・指導者次第です。深く勉強していただいて、それが児童に還元されることを切に願います。講習会等の学びの場に足を運ばれたり、様々な演奏に接することにより、多くの「音楽的引き出し」を作ることが重要です。

<中学校部門>

埼玉県の中学校は過渡期なのかもしれない。ベテランの先生から若い先生に代替わりする時期がきているのでしょうか？これから時代を担う先生方に成長していただきたいの一言に尽きます。ベテランの先生の指導法や音楽作りを踏襲するだけではなく、ご自分で新しいものを作っていく。中学生の指導は多くの困難を伴いますので、コンクールに出場していただくだけでも頭が下がりますが、敢えて厳しめに申し上げました。

<彩の国部門>

埼玉県独自の誇るべき部門だと思います。手放しで素晴らしいと言えます。ですから、こんな素敵な部門があることを周知徹底してコンクールへの「気軽な」参加を促せると良いですね。

<大学職場一般部門>

若いメンバーを中心とした、上位大会に進出することを第1目標にして活動している団体が多いなかで「いぶし銀」と呼ぶに相応しいグループが埼玉には多くあります。そのような団体にコンクールへの参加を促す策を連盟が呈示できると良いですね。

<高等学校部門>

演奏の質も参加団体の数も参加した生徒さんの数の多さも日本でトップクラスではないでしょうか？他県でしたら金賞レヴェルの団体が埼玉では金賞枠に入れない。順位表で今回は下位に位置してしまった団体の質も決して低くない。これは素晴らしいことです。

一般団体の皆さんは高校生を応援していただいて、高校卒業後も埼玉県内で活動を続ける土壌を作っていただきたいですね。東京の団体が埼玉県の高校の卒業生が加盟することで潤っている現状がありますので…。

更に特筆すべきは埼玉県の男子校の合唱の層の厚さですね。全国的に共学化が進むなかで、高校男声合唱が質・団体数共に維持している埼玉県。既に1つの文化と言えるところまで来ていると思います。皆で守っていってもらいたいですね。

佐々木) 合唱指導者として、審査員として、全国の合唱界を牽引する先生が、合唱の道にお入りになった経緯を教えていただけますか？

武田) 国立音楽大学で岡本敏明、小山章三両先生に師事し薰陶を受けたことがきっかけになりました。日本を代表する音楽教育者、合唱指導者の御二人から合唱を基礎から学ぶことができました。そして、卒業後、岡本先生の薦めもありアメリカ留学を決意しました。何故留学先がヨーロッパではなくアメリカなのか？「合唱を伝統文化とし

て長い歴史を重ねてきたヨーロッパよりも、日本と同じように、伝統を持たないアメリカが如何にハイレベルな合唱教育、合唱活動を行っているかを学んで来るべきだ」という恩師の言葉があったからです。

佐々木) ウエストミンスター合唱大学での学び、活動はいかがでしたか？

武田) 指揮者として「こう歌ってほしい」と思った時に、何故そういう歌ってほしいのか？どうすればそのように歌えるのか？を団員に伝える具体的な言葉が必要でした。「上手く歌えなかったので、もう一度繰り返そう」は決して通用しないのです。きちんとした「理論・理論」が求められました。そして、こう歌ってほしいと考えるなら、そのように指揮を振らなければなりません。基本的な事ですが、これらを徹底的に指導されました。

また、海外・国内の様々な交流から多くの言語に触れたことも自分の中で合唱の世界を広げる要因になりました。ですから皆さんも、楽譜を読み込む力、発声法、指揮法、指導法の研究、多くの言語に親しむ等、合唱の世界を広げるための努力を惜しまず続けていただければと思います。

佐々木) 最後に、コンクールにおける審査基準を教えていただけますか？

武田) 審査の観点は以下の5つです。

- ① カラー（声色・音色）～良い声ということよりも曲に合った声であるか？
- ② イントネーション（音程 ※抑揚ではありません）～美しいハーモニーを作る要素として。
- ③ リズム・テンポ～「リタルダンド」「アチェレランド」を含めたアゴーギクの微妙なことまで聴きます。これらは言葉の発語にも関わってきます。例えば8分音符が4つ並んで1つの言葉を形成しているとすれば、各8分音符の長さが一音節ごとに違ってきます。
- ④ ディナーミク（強弱法）～楽譜に作曲家が記したことは、理由があって書かれている訳ですから、それらを演奏家がきちんと読みとっているか？表面的な「大きい」「小さい」ではなく、同じforteでも色々な種類のforteがあります。
- ⑤ インプレッション（感動）～聴衆に訴える力を一人一人のメンバーが持ち、自発的に音楽を奏でているか？音楽作りに参加しているか？指揮者に歌わされていないか？これらが感動的な演奏には必要な条件になります。

更には、演奏を聴いたとき、音程や音色等に不備があったとしても「なんか感動したよね」で高い点数になることはありません。一般的聴衆は「感動」を大事にしていただくべきですが、私達審査員は「感動」に至るまでの①～④の「きちんとしたもの」を聴き取らなければならない職業だと思います。気楽に音楽を楽しめないのが残念ではあります…。

そして、上記の5項目を支えるのは高い声楽技術です。こう歌いたい、こんなハーモニーを奏でたいと思った時に気持ちだけでは実現できません。良い発声法の探求と体得が必須です。

佐々木) 御審査後のお疲れのところ、貴重なお話しを聞かせていただきました。本当にありがとうございました。

インタビュアー：常務理事 佐々木憲二
撮影：埼玉県合唱連盟



左から 佐々木常務理事、武田先生、小野瀬理事長





課題曲を学ぼう

—SAITAMAコーラスワークショップ2019—

7月20日(土)に「クレアこうのす」にてSAITAMAコーラスワークショップ2019が開催されました。来場者数は1000名弱、ワークショップ史上最多の参加者数を記録する盛況ぶり！

この盛況を支えてくださったのはもちろんながら、素晴らしい講師の先生方です。合唱指揮者の仁階堂孝先生、山脇卓也先生、そして作曲家の川浦義広先生。

今年度は全日本合唱コンクール及びNHK全国学校音楽コンクールの課題曲に特化した内容での開催でした。通常の講習会であればモデル合唱団を設定し、その演奏に対して講師の先生方が1～2時間をかけて指導されます。その様子を多くの参加者が聴講するという形態をとることが多いのです。しかし、埼玉県では全国的に見てもユニークな講習の形をとりました。その形は以下のとおりです。

各団体30分枠で指導を受けました。受講団体数は19団体！

当初、「30分の受講時間は短すぎるので？」との危惧もありましたが、その予想を覆すように先生方は密度の濃いレッスンを開いてくださいり、短時間で演奏の質が変化していく様子に、受講者、聴講者共に深い学びを得ていたようです。更には、指導を受けた団体が聴講にもまわり、「聴き合い」「学び合い」の場にもなったことは、



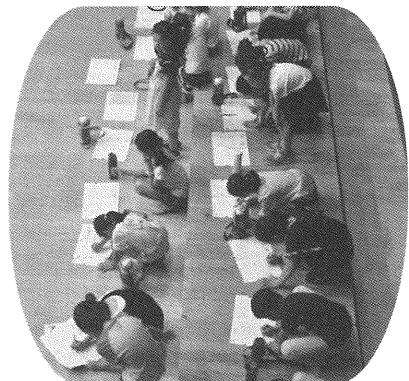
講師 仁階堂 孝先生

連盟としても極めて喜ばしいことでした。

しかし、この受講形態の難点は、講師の先生方のご負担が極めて大きいということです。レッスンの合間の休憩が5分、当日演奏された課題曲の数は9曲（9

種類）。仁階堂、山脇両先生には各9団体のご指導に当たっていただきました。

歌詞言語もスウェーデン語、ラテン語、日本語と様々。先生方がご指導にあたり、各曲



熱心にメモをとる子どもたち

の楽曲分析等に費やされたエネルギーと時間を考えますと、本当に無理を申し上げ、ご苦労を強いてしまったと思います。閉会後、両先生に「お疲れになったでしょう？」と伺うと「楽しかったですよ。私達にとっても得難い経験になりました。」とご返答くださいました。



講師 川浦義広先生

そして、もうお一人の川浦先生は前回のPauseにてご紹介した、今年度全日本合唱コンクール課題曲「雪」を作曲された先生です。作曲家が直接、自作の合唱曲のご指導にあたられる講習も大変興味深いものでした。作曲に至る動機から、音の配置の必然性まで、川浦先生のお人柄からくる柔らかな語り口で、ハイレベルなレッスンが展開されました。

来年度は会場をさいたま市文化センターに戻し、7月23日に開催いたします。詳細が決まり次第、お知らせいたします。 (常務理事 佐々木 憲二)



講師 山脇 卓也先生



埼玉・芸術家シリーズ

「みどりのそよ風」のある風景 — 清水かつら物語 —

和光市駅（東武東上線／東京メトロ）南口に、一つの石碑と時計塔がある。碑文には詩人『清水かつら』の代表作、「みどりのそよ風」「靴が鳴る」「叱られて」の各1番の歌詞が刻まれている。碑の裏側に「わが街の詩によせて」と題した以下の文がある。

“現在の和光市白子に住み、武蔵野の自然をこよなく愛した童謡詩人「清水かつら」、いつの世も変わりなき純粋な子供たちの姿を創作し続けた「かつら」の代表作に想いを込めて…（一部略）”

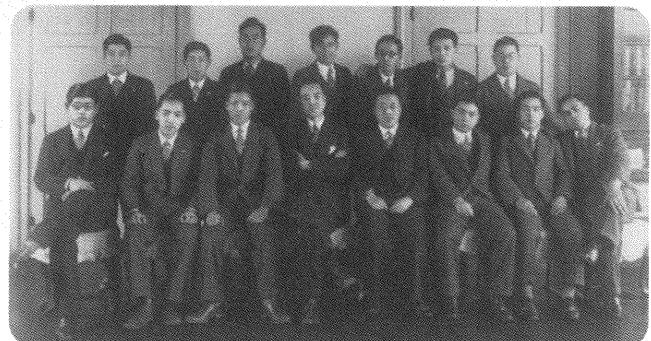
清水かつら



表われているといわれる。「あした」（大正9年）、「叱られて」（大正9年）、など、そんな不幸な生い立ちを感じさせる作品になった。

一方、子供の頃の遠足の楽しい思い出を綴った「靴が鳴る」（大正8年）、6人の幼い弟たちが輪になって学び遊ぶ様を歌ったとされる「雀の学校」（大正10年）。更には、戦後の新時代を感じさせる「みどりのそよ風」（昭和21年）等、とびっきり純粋無垢で爽やかな明るい作品も数多い。

清水かつら（本名桂）は明治31年東京深川に生まれた。明治という時代の中、昔気質の厳格な武家の長男として育てられたが、4歳の時に生母が父と離縁。12歳の時に継母を迎えるまで母親の居ない辛い幼少期を過ごす事となり、この体験が彼の作品には色濃く



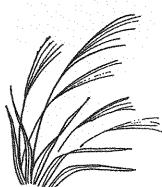
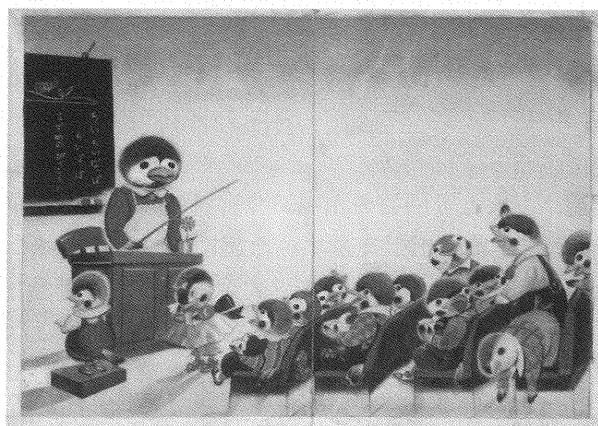
前列中央・腕と足を組む清水かつら

かつらは大正12年に父を亡くし、20代半ばにして一家の大黒柱になってしまう。追い打ちをかけるように関東大震災で被災し、家財の全てを失う事になってしまった。かつら一家は、東京を離れ、継母の実家である新倉村（現在の和光市新倉）に移り住み、その後白子村（同市白子）に移転するが、昭和26年に53歳で没するまで、この地で、「子供の純真で素直な心をそのまま伸ばしてあげたい」との信条で、今に残る多くの名童謡を残したのである。

筆者は昭和56年から、勤務先の社宅がこの和光市新倉にあったので、ここで3年間過ごした。あれから30年以上経つが、今でもこの新倉地区から白子周辺までの緑豊かな武蔵野丘陵の景色がふと蘇ってくる。毎朝通勤で白子川を越えて、板橋区の都営三田線の西高島平駅まで自転車で通っていたので、今にして思えば、毎朝『みどりのそよ風』の中を疾走していた訳だ。

郷土の詩人清水かつらに想いを馳せて、昔の記憶を手縹り寄せてみた。

（常務理事 須田 信男）



資料提供：(公財)和光市文化振興公社



美しい響きをありがとう

～第42回 全日本おかあさんコーラス関東支部大会～

2019年7月6日(土)・7日(日)

於：神奈川県横須賀市／よこすか芸術劇場

7月6日(土)

コーロ・ブリランテ	大会賞
ドマーニ	優良賞
ソット・ヴォーチェ	大会賞
<u>コーラル・デイジー</u>	優秀賞
コーラル・クローバー	優良賞
ピアチェーレ	大会賞

7月7日(日)

蕨女声合唱団	優良賞
コーラル・ソシア	大会賞
浦和ブルーコーラス	大会賞
<u>浦和女声合唱団</u>	優秀賞
大宮コール・ヴァイオレット	大会賞
<u>女声合唱団「曙」</u>	優秀賞
<u>女声合唱団 悠はるか</u>	優秀賞

(出演順に記載)

下線の団体は全国大会への代表

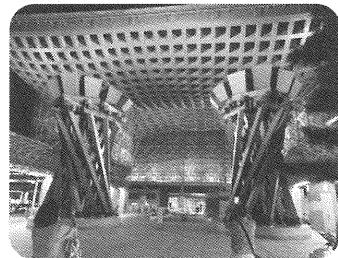
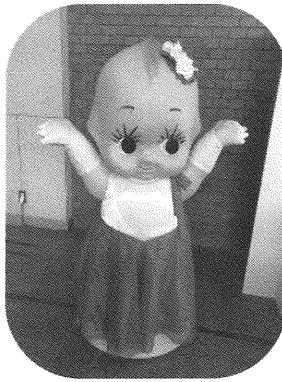
～第42回 全日本おかあさんコーラス全国大会～

2019年8月24日(土)

25日(日)

於：石川県金沢市

金沢歌劇座



会場では特大キューピーがお出迎え

鼓門

浦和女声合唱団

団長 中島文子

おかあさん
コーラス賞

奨励賞

幸運にも浦和女声合唱団は、令和元年8月24日に金沢歌劇座で開催の全国大会への切符を手に入れる事が出来ました。金沢は新幹線で2時間半と日帰りで行ける風光明媚な観光地とあって、団員は大喜び！全国大

会へは、倉敷、琵琶湖、松山、新潟、金沢と5回目の出場。今回演奏の「はつか草」は「はつか草のような清らかな人になりなさい。」幼い頃の母の一言を思い出して書かれた詩にしつとりと味わい深く作られた曲で、人生経験豊かな団員がそれぞれの思いを込めて表現できる名曲です。大会前に作詩の野呂さんにお手紙を出すと「感動を与える演奏をしてください。」とのご返信がありました。本番は諸事情で参加できなかった団員の為にも心をこめて精一杯の演奏をし、観客の皆様に何かをお伝え出来たのではないかと思います。コーラス賞、奨励賞というお土産を頂き、何より団員が無事に帰路につけた事に感謝すると共に、様々なお世話を頂いた方々にお礼を申し上げます。





女声合唱団「暁」

代表 岡 靖子

**おかあさん
コーラス賞**

ほとんどの団員が初めてという北陸新幹線。降り立った金沢は、歴史と趣のある良い風土の落ち着いた街でした。本番前夜の食事会では、名物ののどぐろを食し、ほどよい緊張感を保ったまま本番当日を迎えるました。



今回初出場。日頃から福嶋先生が大切にされてきたことを反芻しステージに立ちました。まわりから仲間の積極的な歌声が聞こえ、声も心も一つになって会場に響いていたように思います。「どんな演奏だったのだろう?」と気になりながらも、やり切った充実感と共に、これまでのいろいろな想いが駆け巡り感無量でした。

会場で聴いてくださった友人や知り合いからはうれしい感想をいただき、爽やかな気持ちで大会を終えることができました。思えば昨年5月に結成してから8人の新入団員に恵まれ、わずか1年余りで全国大会まで行けるなんて夢のようでした。結成から短い間にたくさんの力を注いでくださった福嶋先生には団員一同心から感謝しています。

女声合唱団 悠はるか

代表 鈴木えり子

**おかあさん
コーラス賞**

「第42回全日本おかあさんコーラス全国大会」に私たち女声合唱団悠は初参加いたしました。緊張と興奮と共に金沢駅に到着です。



全国大会の舞台となる金沢ですが、近代的な駅の構内を抜けると海老茶色の鼓門が現れ、古さと新しさが同居する不思議な趣きのある町です。

日本各地から集まった出演団体の方々は、歌、衣装、踊り、演技など様々な工夫をされていて、エネルギーッシュな熱気が、会場となった「歌劇座」に充ちていました。

私たち悠は、サンサーンスのミサ曲から「サンクトゥス」「アニュス・デイ」を演奏しました。華々しく歌いだす1曲目と対照的に2曲目は、静かに進行していくppの旋律とピアノの伴奏が絡まり合い、やがて消え入るようにピアノのC音で締めくくられるという曲目です。結果は「おかあさんコーラス賞」を頂きました。演奏後、会場案内をしてくださった高校生の、「とてもきれいな大人の女声合唱でした」と素直な感想を柔らかな金沢の言葉で聞くことができた事も、団員一同たいへんうれしく、幸せな思い出となりました。

このような機会を与えてくださった関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。

コーラル・ディジー

吉田桂子

**おかあさん
コーラス賞**

初の全国大会、「のすたるじや」「逢えてよかったね」の2曲を選びました。解釈について何度も話し合い、試行錯誤しながら練習を重ねてきた大好きな曲です。



全国大会まで1週間を切ると、小島先生は「事ここに至っては、もう楽しむしかないから」が口癖になりました。みんな、この日々が終わってしまうのを惜しむように、食い入るように練習をしました。その様子は高校の頃の部活ながらで、この練習期間でメンバーの絆と体力がずいぶん強化されたように思います。

当日は金沢歌劇座の熱気の中、最高に楽しむことができ、幸せな一日となりました。いま振り返りながらも、歌詞のとおり「いつまでも、いつの日も、歌い続けたい」と、心から思います。



世代別合唱団事情

合唱との付き合いは、年齢を重ねていくその時々において、多角的にアプローチすることにより、一生を通じての人生の伴侶となっていくのではないでしょうか。

今回は、最終回となりました「高校」「大学」「男声」合唱団の皆様からお話を伺いました。

練習の頻度

高 校	週 5 回
大 学	週 3 回
男 声	月 2~3 回

練習の時間帯

高 校	放課後 16:00~18:30
大 学	18:00~20:00 (土、13:00~17:00)
男 声	夕方 3 時間位

練習の「やりがい」は何ですか？

高 校 ハーモニーが形となり、響きあい、思いがまとまってゆく練習の一瞬一瞬。

ボランティアや文化祭で「良かった！」と直接感想をいただけた時。

大 学 自分たちで一から音楽を作れること。ハーモニーを感じて歌うことができること。

男 声 ステージ（発表）に向けて、演奏曲の精度を上げる。

ステージ後の打ち上げで達成感を味わう。

困っていることは？

高 校 部員の人数がその年によって安定せず、練習環境、組織作りなど、新たな変化の練習に苦戦！

大 学 サークル数が多く、練習場所の確保が難しいこと。パートバランスや人数の問題から、演奏したい曲が限られてしまうこと。

男 声 高齢化（毎年上がり続ける平均年齢）。人数が増えない。40~50代の転勤による休団。本番当日までメンバー全員が集まらない。

大切にしていることは？

高 校

- ・〈共鳴、共有、共感〉
- ・〈歌あう誰かのために〉聴いてくださる方の心に届く音楽づくり。
- ・ボランティアにも積極的に取り組み、音楽を通じて社会貢献を目指す。

大 学 合唱を通じて、仲間と協調すること。学生生活を豊かにすること。定期演奏会に向けて、高いレベルの合唱技術を目指して練習に取り組むこと。

男 声 実年齢より若く聞こえるハーモニー。
少人数を感じさせない音量、ppもノンビリオートで美しく奏ること。



私と合唱

—シニア合唱団員の体験記—

～笑顔と活気あふれる団員～

宇佐美 平 和

Il Campanile 団長



合唱との出会い・今

私が合唱（男声合唱）と出会ったのは高校1年生の時。入学して間もないころの部活説明会だったか。その頃は体育館もなく、講堂という古い学校ならどこにでもある広い建物の中で3年生の4人組が合唱を披露してくれた。とにかくその声の響き合いが講堂中に広がり、私の心を激しく連打したことは覚えている。それ以来、幸いにも合唱は常に自分の人生の中にあった。趣味だからねえと趣味全般を人生のおまけのように考えている人がいるけれど私は、人生とは、食べること寝ることと同様楽しみと共に生きることだと思っている。人生が90年にもならんとしているこの頃、仕事はその半分もできないことがほとんどだ。あの半分以上の人生はどうしたら充実できるのだろう、人それぞれ自分の楽しみを大事に育て、共に生きることが人生そのものだと思う。私は素敵な楽しみと出会えたと感謝している。そしてもっともっと仲間を増やし自分の声の限界を拡げ、たくさんの合唱を歌えたらと願う。皆さんも自分の声の可能性を信じ、いろいろな歌を歌い、そしてなにより仲間と共にこの楽しみをつないでいってほしいと思っている。老いも若きも共に歌おう！

中島文子

浦和女声合唱団団長



昭和・平成・令和のいつの時代も私のまわりには大好きな歌があり、気の合う仲間と合唱を楽しんでいたような気がします。合唱を通して素晴らしい人達や作品との出会いは、私の一生の宝物になりました。浦和一女で尾花勇先生、埼玉大学で増田順平先生、特に順平先生からは美しい透明な和声の響きやアカペラを学び、混声合唱の楽しさを知りました。さらに、42年前、幼稚園のおかあさんから出発した「浦和女声合唱団」で岸信介先生との出会いは私の合唱人生にとって幸運の始まりでした。先生からは多くの女声合唱曲や美しい日本語の表現法を学び、先生の主宰する「船の会」では日本を代表する作曲家の委嘱曲を初演し、貴重な体験をさせて頂いています。八ヶ岳合唱フォーラムでは人気の作曲家を講師に招く講習会に参加。今年の講師は信長貴富さんで、今から楽しみです。人生100年時代！健康でいつまでも歌い続けていたいと願っています。

幸せな合唱人生万歳！！！

加藤良一

男声合唱団コール・グランツ団長／

男声合唱プロジェクトYARO会主宰／元県連理事

その昔、娘のピアノ発表会で無謀にもフルートで共演したのが、私が合唱の世界へ入り込むきっかけとなりました。その発表会は鎌田弘子先生（県連顧問）が主催するもので、その時新しく男声合唱団を立ち上げようとしていました。そこへ飛んで火に入る夏の虫というわけでした。合唱初心者として右往左往していましたが少しずつ歌えるように育てて頂きました。

1990年8月に始まったおとうさんコーラス大会は今年で30周年を迎えました。我がグランツは第1回から連続参加です。この大会で知り合った5つの団が大同団結して旗揚げしたのが男声合唱プロジェクトYARO会。ジョイントコンサートを3回開催しました。その活動から作曲家多田武彦さんとのつながりができ、〈公認サイト〉を開くまでに発展しました。

現在YARO会は男声合唱団ヴィヴ・ラ・コンパニーを結成し定期活動しています。YARO会以外の方も参加されています。と一緒に歌いましょう。



男声合唱団コール・グランツ（一番左が加藤氏）



まるでスポーツ選手のように ～役員改選にあたって～

理事長 小野瀬 照夫

平成30年度から31年度（令和元年度）にかけて、2年毎に行っている役員改選が行われ、その結果7人の理事と1人の監事が退任し、そこに新たな理事と監事を迎えました。

退任された方々には、今まで多大な尽力を当連盟に注いで埼玉県の合唱活動を大いに盛り上げていただき、より広く、そしてより高く引き上げていただいたことに深い敬意を表するとともに感謝いたします。ありがとうございました！

以前も申し上げましたが、合唱連盟はある意味「生きもの」です。常に呼吸し、栄養補給しつつ成長していくべき存在です。これまで連盟は、今回退任される理事ともども様々なアイデアと力を出し合ってきたおかげでここまで発展することができました。

今年度からは新理事とともに更に発展して参ります。旧理事から新理事へのバトンが渡されました。まるで陸上競技

のリレー選手のように華麗なバトンタッチでもうスタートしております。これからも埼玉県合唱連盟が全県の団員の皆さんとともに「ワンチーム」となって力強く進んで参りたいと思います。よろしくお願ひいたします！



2018年3月21日 創立60周年記念事業にて



退任理事・監事あいさつ ～お世話になりました～

15年近くの長い期間に渡りご指導をいただきましたこと、心より感謝いたします。中学生の合唱指導に悩み考へている毎日の中で、多くの先生方にアドバイスをいただけましたこと、有り難く思っております。また、長く同じメンバーと心から合唱を楽しんでいらっしゃる一般の方々の姿を見て、大人になっても歌い続けることの素晴らしさを教えていただきました。今、目の前にいる子供たちが、「歌うことを続けてくれたらいいな」と願っています。今後、合唱連盟の益々のご発展をお祈りいたします。 大館 雅子

20年間理事を務めて参りましたが、この度退任することになりました。合唱の好きな皆さんとは、これからも共に歩んでゆきたいと思います。ありがとうございました。

小松 直詩

2009年より10年、理事を務めました。一つ一つの行事を無事終える事の大変さを痛感し、合唱団員皆様の心温かいお手伝いに感動し、全員合唱の折の心一つに皆で歌う美しい響きに、この場に居合わせた幸せをしみじみ感じました。私にとって理事生活は、まさに音楽と共に沢山の感動の10年でした。有り難う御座いました。

小林 玲子

この度、一身上の都合で理事を退任させて頂くこととなりました。役員の方々との素晴らしい仕事の経験、舞台での音楽と笑顔、どれもかけがえのないものでした。

合唱連盟に関わる全ての方が心から音楽を楽しめる事を願って、ご挨拶に代えさせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。 中尾 一貴



7期14年間お世話になりました。

合唱活動を支える立場の仕事がどの程度できたか自信のないところです。在任中の不手際等をお詫びしたいと思いますが、私にとってとても有意義な時間であったことは間違ひありません。

これからは、事務局員として皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

宮野 善也

大変お世話になりました。どうも有難うございました。

埼玉県合唱連盟は、とても向上心があり合唱が好き音楽が好きという熱い思いの方々の団体ですね。その思いをお互いに理解し合いながら意見交換を重ねて、県連の更なる発展と皆様のご活躍を陰ながら鴻巣より応援しております。

年代を越えた出逢いと思い出に感謝の20年でした♪

柳田 喜恵子

県合唱連盟に身を置き、10年の歳月。お世話になりました。理事長先生始め歴代理事の方々、各事業の担当係員としてご協力いただきました団体の皆様に深く感謝申し上げます。事業に携わりながらの学びは数限りなく、一つ一つが感慨深く心にあります。裏方で纏めあげる事務局の皆様、ありがとうございました。

森田 明子

2期4年に渡り、大変お世話になりました。今後は事務局にて、運営に携わり埼玉県合唱連盟に寄与したいと思います。

監事 井口 恵美



新任理事・監事あいさつ

～よき伝統とあらたなチャレンジ～



合唱連盟とは小高先生の時からのおつきあいです。また理事として活動させていただくことになりました。新任というにはずいぶん年をとっていますが、気持ちだけは若いつもりで頑張ります。よろしくお願ひします。

印東 公民



皆さん、こんにちは。私は、小学校4年生で合唱伴奏を始めて、様々な人の出会いによって音楽、合唱が好きになっていきました。まだまだ、教えてもらえばかりですが、挑戦する気持ちを忘れずに頑張っていきます。

清野 将平

これまでいろいろな行事に参加できていたのは、連盟の方々が丁寧な準備・運営をしていただいたお陰であることに改めて気付くことができました。私も微力ながら運営のお役に立てればと思います。よろしくお願いします。

栗原 晶代



娘の通う幼稚園のPTAコーラスに入部して合唱に魅せられ、歌い続けて25年。現在は浦和女声合唱団とソット・ヴォーチェに在籍して多くの仲間と合唱を楽しんでおります。

この度、理事を仰せつかり、微力ですが皆様のお役に立てるよう努める所存です。

津島 登志子





初めまして。新しく理事になりました永井基生です。今まで出演するばかりでしたので、連盟への恩返しの気持ちで引き受けました。合唱普及のため、少しでもお役に立てるよう務めます。よろしくお願ひいたします。

永井 基生



この度、役員への就任を仰せつかりました松川大と申します。このような大役を仰せつかるには、まことに微力ではありますが、皆様のご助言、ご協力をあおぎ、業務に邁進してゆこうと思います。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今後は初心に帰り、自ら努力し、埼玉県の合唱界を発展させていきたいと考えております。

松川 大

合唱の大変盛んな埼玉において理事として仕事をさせていただく事大変光栄に思っております。

先輩理事の方々からご指導頂きながら、埼玉県の合唱活動がますます盛んになるよう尽力させて頂きたく思います。よろしくお願ひいたします。

南方 隼紀



高校の入学式でかかった魔法は、男声合唱、混声合唱、古楽、第九…個性豊かな仲間と彩とりどりな歌を唱う喜びを与えてくれました。連盟とお世話になった先生方、故小高秀一元理事長に微力ながら恩返しをしたいです。

監事 正木 一弘



お知らせ — 2020年度合唱コンクール 審査員について —

第63回埼玉県合唱コンクール

8月22日(土) 高等学校部門

審査員：江上孝則、大島 博、福永一博、古橋富士雄、山脇卓也

23日(日) 小学校部門・中学校部門混声・同声

審査員：江上孝則、大島 博、福永一博、古橋富士雄、山脇卓也

30日(日) 彩の国部門・大学職場一般部門

審査員：大島 博、小畠恒夫、河合孝夫、福永一博、古橋富士雄

会場は3日間共にさいたま市文化センター

第75回関東合唱コンクール

9月19日(土) 高等学校部門A・B (群馬県高崎市／群馬音楽センター)

審査員：雨森文也、江上孝則、鈴木茂明、藤井宏樹、本山秀毅

20日(日) 中学校部門同声・混声 (群馬県高崎市／群馬音楽センター)

審査員：雨森文也、江上孝則、鈴木茂明、藤井宏樹、本山秀毅

10月11日(日) 大学職場一般部門 (静岡県三島市／三島市民文化会館)

審査員：雨森文也、江上孝則、鈴木茂明、藤井宏樹、本山秀毅

コンクール参加団体は、第75回関東合唱コンクール終了時まで、埼玉県合唱コンクール及び関東合唱コンクールの審査員に指導を受けることを禁じます。





Tact vol.28



指揮者 小川明子

～魅力あふれる指揮者～

きっていたようですが、叱りもせずにやりたいようにさせてくれました。母も合唱中毒の一人でした。

大学受験のために歌のレッスンを受けていた高橋啓三先生も初めのうちは「合唱は喉をこわすからやめなさい」とおっしゃっていましたが、私のあまりの合唱熱心さに「君は第九を歌わなければ一年が終らないのだろう」と苦笑しながらお許しいただき、高校3年の冬も無事第九のステージで歌うことができました。この年の演奏会でも先生がバスのソロを歌われ、自分も先生と同じステージで歌えたことがとても嬉しかったのを覚えています。

そもそも歌を習い始めるきっかけとなったのも、この第九合唱団でした。毎年ソリストとして歌ってくださっていた高橋啓三先生を特別練習のトレーナーとしてお呼びしたのです。その時先生が「歌を勉強しなさい」と高校1年の私に勧めてください、音楽の道を志すことになったのでした。

合唱が私を育て、これまでの人生を導いてくれました。一人っ子で負けず嫌い、なんでもやりたがり屋の私だったけれど、合唱が多くの経験と素晴らしい出会いを与えてくれました。この世に合唱が在ってよかったと心から思っています。

ありがとう合唱、これからもよろしく！

※※※※ それぞれの周年記念 ※※※※

10周年

Blanc Bouleau

10周年記念演奏会実行委員長 新井 こずえ

10周年記念演奏会を終えて

プラン・ブロー10周年記念演奏会を5月18日、川口リリア音楽ホールにて開催いたしました。お陰様でたくさんの方に聴いていただけた事、本当にうれしく嬉しい思っています。

この度の演奏会では、第1ステージにモテット、第2ステージでは松下耕作曲の「愛するもののためにうたう歌」を、第3ステージではギー・ロパルツのミサ曲を、第4ステージでは往年の名曲と、どのステージも色彩豊かに皆様の心に届けと願いつつ演奏させていただきました。特に第3ステージでは、一緒に歌って下さる方を公募し、パイプオルガンの伴奏で歌う事ができました。

メンバーは40代～70代までと幅広い年齢構成となっており、年代を超えて、自主練習時には活発な意見が飛び交います。指揮の斎藤暢子先生の若さ溢れる指導は、まず体操から始まります。時間に余裕のある時には、サッカーの「長友体操」から数種類を息を切らせてやり、发声練習、そして曲の練習へと進みます。歌う事で体幹が鍛えられ、笑いが絶えない先生練習で、口角が上がり、免疫力もアップ！良い事づくめです。これからも歌える環境に感謝しつつ、次の目標に向かって頑張っていきたいと思っています。





♪私たちの場所

Stage

合唱団 amabile

団長 白鳥直子

私たちの合唱団は発足から一年半しか経たない新しい団体です。武里中学校音楽部元顧問の先生の声掛けにより集まった保護者たちで、メンバーは合唱未経験の人が殆どです。ただ一つ集まったメンバーたちに共通しているのは「合唱が好きで興味がある」という事だけでした。ステージに立つ前は皆不安な気持ちで向かって行きますが、歌い終わった後には晴れ晴れとした表情になり、達成感・連帯感で繋がります。ほんの少しの共通点で集まった私たちでしたが、ステージが私たちを仲間にしてくれました。これからも一緒にステージで楽しめるように団員全員で心を一つにして活動していきたいと思います。



上尾市立東町小学校合唱団

団長 鹿嶋みらい

上尾市立東町小学校合唱団は、3年生から6年生までの35名で楽しく活動しています。平日の放課後や、土曜日に練習しています。平成30年4月に結成し、隣の上尾小学校と活動していました。令和元年度から、単独で活動を開始しています。4分の3が新メンバーでしたので、学年を越えてみんなが仲良くなれるようにと夏休みに合宿をしました。夜に遊んだゲーム大会は、今でも心に残っています。夏のコンクールが終わると、9月からは、市民音楽祭に出演したり、地域に呼ばれて招待演奏を披露したりします。私たちは、上手ではないけれど、聴いてくださる方の心に届く笑顔いっぱい透き通った歌声を目指して頑張ります。これからもよろしくお願いします。



ツイッター始めました。
@scl_from1957
フォローお願いします♪

編集後記

Pause51号をお届けいたします。新たに就任された朝日新聞雑崎（さいざき）さいたま総局長、合唱コンクール審査員長の武田雅博先生へのインタビュー、埼玉県が生んだ詩人清水かつらの特集などをお届けしました。今後も皆様の豊かな合唱ライフのお手伝いをします。（理事 浅子 元）

街に、人に。
あたらしい居心地をつくろう。

住まい価値創造企業
POLUS
ポラスグループ

50th
ANNIVERSARY
おかげさまで50周年



分譲住宅 | 注文住宅 | 仲介 | リフォーム | 賃貸
ボラス株式会社 埼玉県越谷市南越谷1-21-2 TEL048-989-9119
(宅建業 国土交通大臣(12)第2401号(株)中央住宅)

ぼく、ボラ猫。
いつだって、自分に
居心地のいい場所を
探しているよ。

